

箕面に息づく、仄かな光のすぐ傍に

守る会 箕面ホタルを

光の波が、夕闇の中を寄せては返す……。

箕面にとって古くから生活と共にあつた「ホタル」。

『箕面ホタルを守る会』は、現代の環境変化のなかで懸命に生きる淡い光に寄り添い、温かな眼差しを送り続けている。

箕面にとつて古くから生活と共にあつた「ホタル」。

『箕面ホタルを守る会』は、現代の環境変化のなかで懸命に生きる淡い光に寄り添い、温かな眼差しを送り続けている。



箕面ホタル観察会 2016

| 日程 | 場所 | 種類 | 集合場所 |
|-------------------------|-------|----------------------------|--------------------|
| 5/28(土) | 春日神社 | ヒメボタル | 小野原西バス停 |
| 6/11(土) | 勝尾寺川 | ゲンジボタル | 粟生団地バスローター |
| 6/18(土) | 箕川 | ハイケボタル ゲンジボタル | 帝釈寺北側駐車場 |
| 7/2(土) ★深夜 オプション有 | 勝尾寺園地 | ゲンジボタル ★小型ヒメボタル (深夜) | 粟生団地バスローター (深夜) |
| 8/27(土) | 止々呂美 | クロマドボタル | どろみの森学園前バス停 |
| 10/1(土) | 医王岩付近 | クロマドボタル | 萱野北小前バス停 |

参加費(保険料など): 200円 ※小学生以下の子どもは保護者付き添いでお願いします。参加費は保護者のみ
時間: 午後7時~9時(集合時刻/午後6時半) ※小雨決行
★深夜オプション: ゲンジボタル観察後、車で深夜の山中へ(大人のみ)
○全て事前の申し込みは必要ありません

● ゲンジボタル 水生



体長: 約 15mm
特徴: 前胸部のピンク色の間に「十字型」の模様がある。
生息地: 川原
時期: 6月上旬
発光イメージ: ➡➡➡

● ハイケボタル 水生



体長: 約 9mm
特徴: 前胸部のピンク色の間に「1の字型」の模様がある。
生息地: 水路や池
時期: 6~8月
発光イメージ: ➡➡➡

● クロマドボタル 陸生 ★発光は幼虫のみ



体長: 20~30mm(幼虫)
特徴: 幼虫の尾部に一对の発光器がある。地域で体の模様が異なる。
生息地: 竹藪や参道
時期: 7~9月
発光イメージ: ➡➡➡➡

● ヒメボタル 陸生 ★大型と小型に分けて観察



体長: 6~9mm
特徴: 前胸部のピンク色の間に模様はなく、前部が黒い。♀は飛翔できない。
生息地: 草地や藪／山地
時期: 5月下旬 / 7月上旬
発光イメージ: ◆◆◆◆



『守る会』が毎年行う「観察会」の様子。参加者は先ず自己紹介を行い、ホタルについて学び現地へと赴く。ホタルとの出会いを心待ちに集まる会員以外の参加者も多く、大人も子どもも真剣な眼差し

本年で活動14年目を迎える『守る会』。毎回の「観察会」には多くの方が参加し、親子3代で通い始めた小学生

箕面の夜空に耀く光

「いい質問ですね」と頷きながら言葉を続ける。「ホタルは、幼虫の頃から威嚇のために光っているんです。成虫が光るのは結婚相手を見つけるためですね」。幼虫も光るという情報に驚く。4月末の雨の夜には水生ホタルの幼虫が光りながら上陸する様子が觀察される事があり、急いで現場に駆けつけているそうだ。さらに成虫の発光が織り成すエピソードも伺った。「オスが空中で光るとね、メスがその光に同調するように光る。綺麗ですよ」。成虫の寿命は長くて10日ほど。森の奥や川の上流で、健気に光るホタル。「観察会では、まずこのような情報を勉強し、実地観察へ赴くという。



連絡先 会長 石田達郎

TEL: 0728-5887

MAIL: QZFO3272@nifty.com

会員募集中(年会費 1,000円)

入会者は、以降の観察会の参加費無料



非営利活動団体 vitalink
ホタルの情報を検索したり、
マップ作成に参加できます!
<http://www.coco-hotal.com/>

「知つて、知らせて」 手作りのホタル保護活動

春には桜、秋には紅葉と、四季折々の風景を楽しめる場所が多い箕面。箕面のホタルは、そんな豊かな自然をゆりかごに育まってきた。「せっかくこんなに綺麗なホタルがいるのに調査されないのかつて」。小野原西の「春日神社」で、ホタルを眺めていた時の思いを語る『箕面ホタルを守る会』会長の石田達郎さん。昔からホタルが多くかった箕面だが、人間の活動がホタルに及ぼす影響は調べられていかなかった。

箕面のホタルを守りたい——。こうして2002年8月、「箕面ホタルを守る会」(以下「守る会」)が誕生。ホタルの「観察会」を開始し、「ホタルのいま」を知つてもう活動に取り組み始めた。2004年に「第8回ヒメボタルサミット」を箕面で初開催し、2011年には「おおさか環境賞」の準大賞を受賞した「守る会」。さらに行政と協力し、ホタルの生育環境を整えている。例えば、小野原西の一部の街灯にはホタルの発光を妨げない遮光板が、「小野原公園」には「ヒメボタルベンチ」が設置されている。「ホタルの現状を話すと、皆さん協力しましよう」と言つてくれた」と石田さん。可憐なホタルを大事にしたいという気持ちちは、市民共通のようだ。

身近な住人?

実は知らないホタルの話



「小野原公園」に設置されている「ヒメボタルベンチ」。市民から要望があった解説盤もあり、子どもたちも楽しみながらホタルに関心が持てる

箕面には、水生と陸生のホタルがそれぞれ2種類、計4種類以上のホタルが住んでいる。日本ではホタルは水辺に住むイメージが強いが、海外では陸生のホタルが主流。緑が多く水が綺麗な日本の環境が、水生ホタルの成育を可能にしたそうだ。翻つて現代の自然環境。「守る会」が調査を始めるごとにホタルの数が減少している事がわかつてきた。1番ピンチなのは水生の「ハイケボタル」。「ハイケボタルは田んぼの水路や池に住む。だから、田畠の減少が住んでいます。日本ではホタルは水辺に住むイメージが強いが、海外では陸生のホタルが主流。緑が多く水が綺麗な日本の環境が、水生ホタルの成育を可能にしたそうだ。翻つて現代の自然環境。「守る会」が調査を始めるごとにホタルの数が減少している事がわかる。少など、人間の活動の影響を受けやすくなっています。石田さんは、「守る会」が行つてきただ観察会や市民からの情報で作られたマップを指差しつつ、「活動によって生息数が少し回復してきた場所もあるよ」と微笑む。笑顔の裏での地道な調査に頭が下がる。

ところで……ホタルはなぜ光るのだろうか。高校で教鞭をとる石田さん。



箕面ホタルを守る会
会長 石田 達郎さん
「ホタルは奥が深く、色々な事が分かります。是非まつて下さいね」と石田さん